



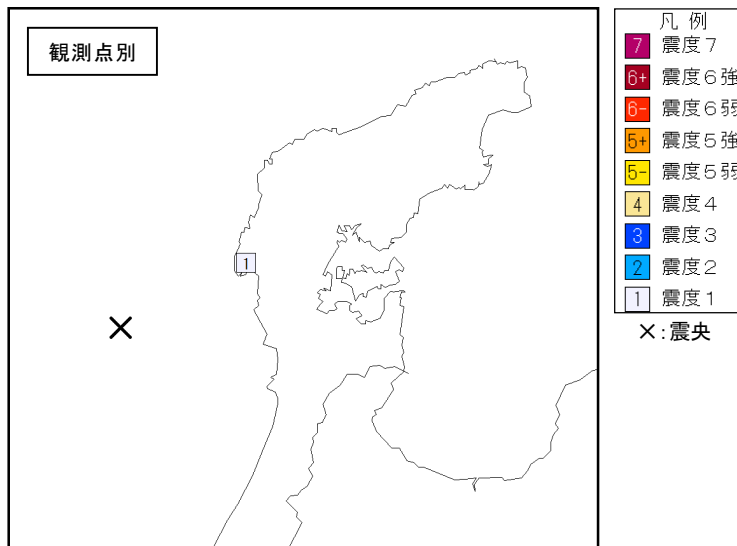
### 3. 令和2年(2020年)12月に石川県内で震度1以上を観測した地震の表

石川県で震度1以上を観測した地震について、石川県内の各地の震度を掲載しています。

\*の付いた観測点は石川県または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点、他は気象庁の観測点です。

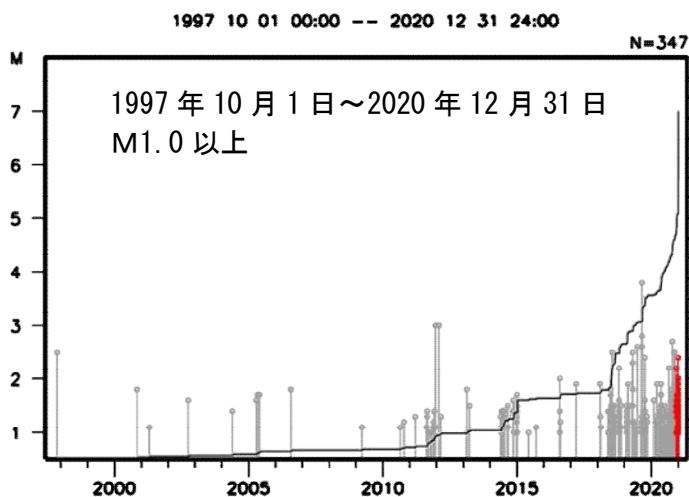
地震の発生日時	震源地名	緯度	経度	深さ	地震の規模
各地の震度					
① 12月28日03時15分	石川県西方沖	37° 02.1' N	136° 24.2' E	10 km	M 3.6
震度1 : 志賀町香能*					

### 4. 令和2年(2020年)12月に石川県内で震度1以上を観測した地震の震央と市町の震度分布図

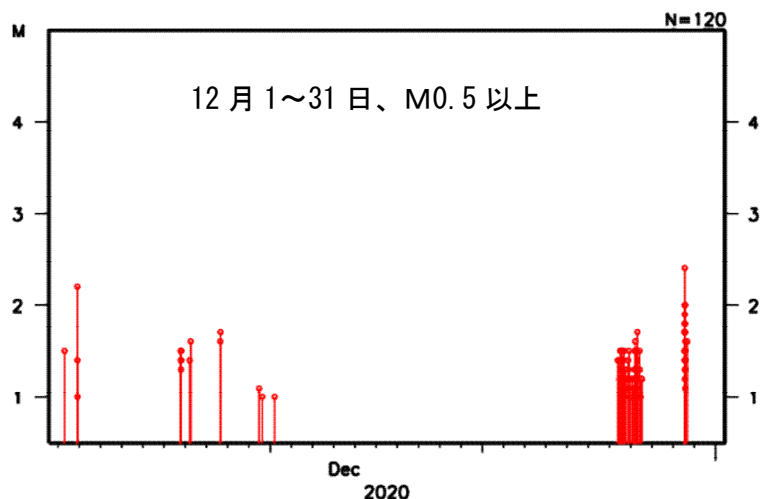


①12月28日03時15分の石川県西方沖の地震  
(石川県周辺)

### 5. 石川県能登地方の地震(2.震央分布図中の領域a内)の地震活動



第2図 地震活動経過図及び、地震回数積算図



第3図 地震活動経過図

石川県能登地方(第1図の領域a)で、今月は震度1以上を観測した地震はありませんでした(先月2回)(第3図)。

1997年10月以降の活動を見ると、領域a内では2018年頃からまとまった地震活動が見られており、活動は継続しています(第2図)。

## 6. 過去1年間に石川県内で震度1以上を観測した震度別地震回数表

年	2020年												合計
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
震度1	0	1	5	1	3	0	0	0	4	1	1	1	17
震度2	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
震度3	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	3
震度4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
震度5弱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
震度5強	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
合計	0	1	8	2	4	0	0	0	6	1	1	1	24

## 震度はどうやって決めるの？

震度は、地震による揺れを感知し自動的に震度を計算する「震度計」という機器で観測しています。地震が発生すると、全国の震度計で観測された震度を自動的に収集し、気象庁では地震発生から約1分半後<sup>\*</sup>に各地域の震度を速報でお知らせしています。

<sup>\*</sup>震度3以上の場合



震度計

気象庁が発表する震度は、以前は気象庁の職員の体感や、まわりで発生した被害の様子などから決めていました。平成8年（1996年）に震度計で震度を観測する体制に移行し、より迅速に全国の震度をお知らせできるようになりました。



## 震度階級表

震度階級	人の体感・行動	屋内の状況	屋外の状況
0	人は揺れを感じないが、地震計には記録される。	-	-
1	屋内で静かにしている人の中には、揺れをわずかに感じる人がいる。	-	-
2	屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。眠っている人の中には、目を覚ます人もいる。	電灯などのつり下げ物が、わずかに揺れる。	-
3	ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。	棚にある食器類が音を立てることがある。	電線が少し揺れる。
4	ほとんどの人が驚く。歩いている人のほとんどが、揺れを感じる。眠っている人のほとんどが、目を覚ます。	電灯などのつり下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類は音を立てる。座りの悪い置物が、倒れることがある。	電線が大きく揺れる。自動車を運転していて、揺れに気付く人がいる。
5弱	大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。	電灯などのつり下げ物は激しく揺れ、棚にある食器類、書棚の本が落ちることがある。座りの悪い置物の大半が倒れる。固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。	まれに窓ガラスが割れて落ちることがある。電柱が揺れるのがわかる。道路に被害が生じることがある。
5強	大半の人が、物につかまらなさと歩くことが難しいなど、行動に支障を感じる。	棚にある食器類や書棚の本で、落ちるものが多くなる。テレビが台から落ちることがある。固定していない家具が倒れることがある。	窓ガラスが割れて落ちることがある。補強されていないブロック塀が崩れることがある。掘付けが不十分な自動販売機が倒れることがある。自動車の運転が困難となり、停止する車もある。
6弱	立っていることが困難になる。	固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
6強	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物が多くなる。補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。
7	立っていることができず、はわないと動くことができない。揺れにほんろうされ、動くこともできず、飛ばされることもある。	固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある。	壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する建物がさらに多くなる。補強されているブロック塀も破損するものがある。

この資料は速報であり、後日の調査により修正することがあります。

※この資料に関する問い合わせ先

金沢地方気象台 地震担当 電話番号 076-260-1462

金沢地方気象台ホームページにも掲載しています。

アドレス <https://www.jma-net.go.jp/kanazawa/gaikyo/index.html>

※本資料中のデータについて

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※2020年4月18日から10月23日の地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前後と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られることがあります。

## 石川県の被害地震

下図は、1600年代以降、石川県とその周辺で発生したマグニチュード（M）5.5以上の地震の震央分布図です。

このうち、緑色の丸が石川県に被害をもたらした地震です。

石川県に被害を及ぼす地震は、主に陸域の浅いところで発生する地震（地殻内地震）で、地上からの深さが概ね20kmより浅い場所で発生するため、比較的規模の小さな地震であっても震源の直上付近では強い揺れとなり大きな被害となることがあります。また、海域でM6.5以上の規模の大きな地震が発生した場合は揺れだけでなく、津波への警戒が必要です。

このように石川県とその周辺では被害地震が多数発生していることから、日頃からの備えは重要です。

【凡例】 発生地域（名称） 発生年月日  
震源の深さ 地震の規模 被害概要

**能登半島沖（平成19年（2007年）能登半島地震） 2007年3月25日**  
11km M6.9 死者1人、負傷者338人、家屋全壊686棟など

能登 1892年12月9日 M6.4  
地割れ、家屋・土蔵に破損。

能登 1892年12月11日 M6.3  
堀松村末吉で全潰2棟、死者1人、負傷者5人、家屋破損多しなど

石川県西方沖 2000年6月7日 21km  
M6.2 負傷者2人、窓ガラス破損など

石川県西方沖（大聖寺沖地震）  
1952年3月7日 M6.5 死者7人、負傷者8人、建物半壊4棟など

石川県西方沖 1930年10月17日  
M6.3 煙突の破損など。片山津で死者1人。

加賀大聖寺 1640年11月23日  
M6 1/4~6 3/4 家屋の損潰多く、人畜の死傷も多かった。

福井県嶺北地方（福井地震）  
1948年6月28日  
M7.1 石川県で、死者41人、負傷者453人、家屋全壊802棟。

加賀小松  
1725年  
6月17日  
M≒6.0  
城の石垣・蔵等、少々破損。

石川県加賀地方（北濃尾地震）  
1961年8月19日  
M7.0  
石川県で死者4人、負傷者7人、家屋半壊1棟など。

能登半島沖 1993年2月7日 M6.6  
石川県で、重傷1人・軽傷28人、建物全壊1棟など

能登半島 1896年4月2日 M5.7  
蛸島村で土蔵倒潰2棟。家屋破壊15棟、土蔵壁落11棟など。

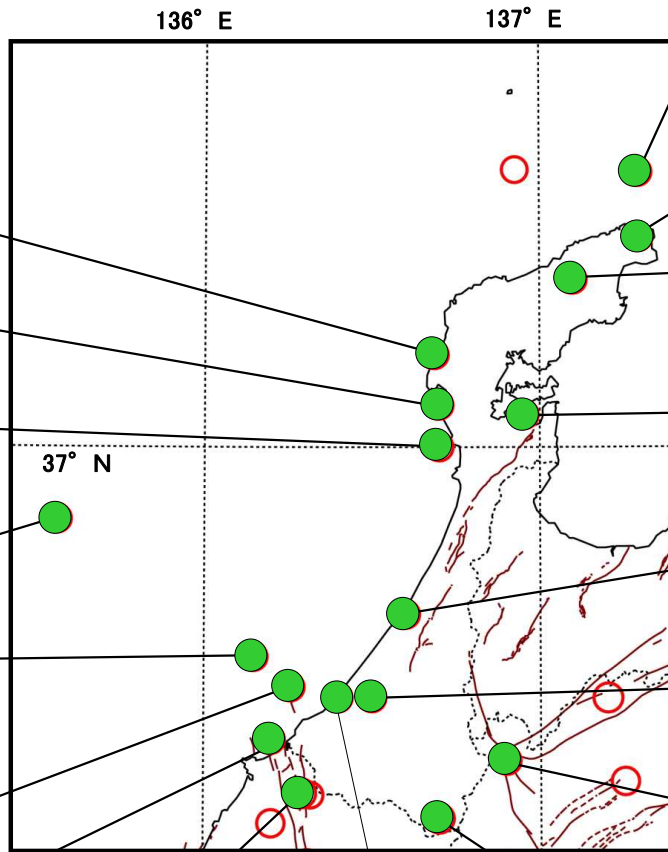
能登・佐渡 1729年8月1日  
M6.6~7.0 珠洲郡・鳳至郡で死者5人、損・潰家791棟など

石川県能登地方 1933年9月21日  
M6.0、鹿島郡で死者3人、負傷者55人、家屋の倒潰2棟など

加賀（金沢地震）1799年6月29日  
M6.0±1/4 金沢城下で家屋全壊26棟、能美・石川・河北郡で家屋全壊964棟、死者は全体で21人。

加賀小松 1815年3月1日 M≒6.0  
加賀小松城で破損が多かった。

飛騨白川・金沢 1855年3月18日  
M6 3/4±1/4 金沢城内で石垣・堀崩れ、土蔵少損。



1600年代以降石川県とその周辺で発生したM5.5以上の地震の震央分布図

（緑色の丸は被害の発生した地震。陸地の茶色線は地震調査研究推進本部の長期評価による主要活断層帯を示す。1997年9月以前の震源の深さは精度が低いため記載していない。）